

まちの名に 歴史あり

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)



馬場 (昭和 49 年)

天野川の氾濫や山の崖崩れなどの危険が無い場所でした。そのため古代から集落が作られ、馬場からは弥生時代の土器が発見されています。

しょうじ ばば 小路・馬場

私市の小路は、旧集落の中で一番高いところにあり、小路の南西を馬場と言います。

この辺りは、山の尾根が前面に突き出した丘のようになった高台で、



わだんざか 和田坂

小路・馬場から松宝寺池の横を通って森へ出る高台を通る道があり、この道から京阪電車の線路を渡る橋が百重ヶ原橋です。この辺りに立って、北から西を見渡すと、井手ノ内・中通り・天田といった私市の水田地帯が広がっています。そして、百重ヶ原橋の少し西の井手ノ内への崖を下る道を、和田坂と呼んでいます。



哮ヶ峰と
クライミングウォール

たけるがみね 哮ヶ峰

鮎返しの滝から溪流を少し下ると、府民の森や星田園地があり、その敷地に大きく切り立った岩肌を持つ山を哮ヶ峰と言います。ここは昔、石切場でしたが、平成9年のなみはや国体でロッククライミング会場となり、今でもクライミングウォールとして使われています。

はごろもばし 羽衣橋

天女が羽衣をまとして、天から舞い降りる羽衣伝説は日本各地に存在しています。最古の羽衣伝説は1,200年以上も前のもので、滋賀や京都に残されています。

天野川の上流(現在の奈良との県境)にある交野の羽衣橋では、夜空に長く帯のように見える天の川と、花こう岩が風化した白砂と岩を砕いて流

れる天野川を重ねて羽衣伝説が生まれたのかもしれない。

かつて羽衣橋の付近に、鍋石、という黒い大石がありました。

神功皇后が大和に行く途中、ここで炊事を始めましたが、鶏の鳴き声を聞いて、もう朝だと思って大石の上になべ、を置いたまま出発したことからその名がついたという伝承があります。